

西予市合併 20 周年記念式典 市長式辞

豊穰の秋を迎えた今日の良き日。

ここに、西予市合併 20 周年記念式典を挙行いたしましたところ、愛媛県知事
中村時広 様、国会議員の先生方、愛媛県議会議長をはじめ、多数のご来賓の
皆様、市民の皆様のご臨席を賜り、心より御礼申し上げます。

西予市は、平成 16 年4月1日、旧東宇和郡の明浜町、宇和町、野村町、
城川町、旧西宇和郡の三瓶町の5町が合併し、誕生しました。

以来、20 年の歳月を経て、本年、合併 20 周年の記念すべき節目を迎えること
ができましたことは、感慨もひとしおでございます。

これもひとえに、格別のご指導、ご高配を賜りました、各界各層の皆様、また、
市政運営に深いご理解とご協力をいただいております市民並びに議会の皆様
のご尽力の賜物であり、心より感謝と御礼を申し上げる次第であります。

振り返りますと、平成 17 年度に策定した西予市第1次総合計画、そして、
平成 28 年度からの第2次総合計画をもとに、厳しい財政状況にあっても、あらゆる
力を結集し、既存の価値観、前例、自治体間の横並び意識といったものに縛られ
ず、改革・チャレンジ精神をもって、市民が安心して暮らせるまちづくりにスピード感を
持って取り組んで参りました。

とりわけ、全国的に少子高齢化・人口減少が進む中で、持続可能な地域づくりを展開し、地域の実情に応じた行政サービスの提供を行うための「小規模多機能自治」の実現に向け、初代三好市政からのバトンを引き継ぎ、取り組みを進めて参りました。

従来 of 公民館から「地域づくり活動センター」への移行を進め、令和5年度から市内27地区で稼働を始めました。

「地域住民が主体となって地域課題を解決する拠点」、

「人口減少によって課題となる防災や地域交通などに取り組む拠点」、

など、4つの機能を軸にセンター運営をスタートし、現在、2年目を迎えているところでございます。

それぞれの地域においてまちづくりの機運の高まりが見られており、今後の活動の充実と地域の活性化に大きな期待を寄せているところであります。

今後も最重要かつ喫緊の課題である、少子高齢化・人口減少対策に対峙していくため、オール西予で関連する施策を推進して参ります。

この10年間は、気候変動などの影響もあり、西予市がこれまでに経験したことのない、激甚化・複雑化した災害が発生しました。

平成29年2月に発生した野村町予子林地区の火災においては、11棟の建物が全焼。

翌年、平成 30 年2月には、記録的な寒波により、家庭の水道管が凍結破損し、宇和町を中心に市内各所で広域断水が約1週間続くこととなりました。

そして、平成 30 年7月、西予市の歴史において、深く刻まれることになる西日本豪雨災害。

発災から今年で6年を迎えることとなりましたが、平成 30 年7月7日の早朝、一瞬にして尊い命が奪われ、多くの市民が貴重な財産を失った、大きな喪失感に包まれたあの日を、私は一生忘れることはありません。

しかしながら、この未曾有の大災害を受けながらも、被災された市民の皆様はもとより、市内外のボランティアや国、県及び全国の多くの自治体の皆様、自衛隊や消防団等のご協力や温かいご支援を賜り、復旧復興を着実に進めることができ、やっと復興を実感できるようになりました。

あの日のことを今後も風化させることなく、災害の経験を教訓に、南海トラフ地震や局所的、断続的な集中豪雨など、激甚化・頻発化する災害への備えを市民の皆様や関係機関とともに取り組んで参ります。

平成から令和という新しい時代を迎えた直後に、新型コロナウイルス感染症という、新たな災害に直面することになりました。

市民の皆様のご理解とご協力、国、県からの支援などにより、感染症対策の徹底と経済対策を両輪で進め、対応して参りました。

令和5年5月に「5類感染症」となるまでの4年間、当たり前のことが当たり前でなくなった日々が続きましたが、感染症との戦いの中で、私たちは自由に行動できることの喜びと集うことの幸せを改めて実感したように思います。

ウィズコロナ、ポストコロナ社会の幕開けにより、対外的な交流も再開しました。

平成5年に姉妹町締結をして以来、文化・スポーツ・教育など、多岐にわたる分野での交流をさせていただいております、北海道黒松内町と姉妹市町提携30周年を、昨年、迎えることができました。

本日は、遠方より、黒松内町 鎌田町長 様並びに福本議長様に、ご臨席いただいております。

今後も両市町の更なる発展と繁栄、そしてより一層の友好関係に向け、絆を深めて参りたいと存じます。

国際交流では、相撲交流がご縁で、令和元年にモンゴル・ドンドゴビ県と「友好関係構築に向けた覚書」を締結し、今後は、経済や観光など、あらゆる分野での交流を深めていくこととしております。

西予市の成長の証である20年という歳月を振り返りつつ、今、我々は、次のステージへの重要な分岐点に立っていると感じております。

現在、西予市は医療福祉改革に取り組んでいます。人口減少に伴う経営の悪化、医療人材不足が深刻化する中で、持続可能な地域医療福祉の実現を

果たすため、市立病院及び老健施設つくし苑に指定管理者制度を導入し、令和7年4月1日から民間法人による安定的な経営と地域に必要な医療福祉サービスの提供に努めてまいります。

また、合併時からの懸案でありました、三瓶地区の消防管轄の再編につきましても、関係市町のご理解をいただき、こちらも来年4月1日から西予市消防が三瓶地区を管轄し、火災、救急、防災に関し、西予市として一元的な指揮命令の下で、運用する運びとなりました。

まだまだ課題は山積しておりますが、10年後、さらにその先の20年後を見据え、「変革」を恐れず、「常に危機感・常に挑戦」を胸に、輝き続けるまちづくりに引き続き取り組んで参ります。

結びに、西予市のさらなる飛躍のために、市民の皆様、関係各位の皆様から、なお一層のご支援ご協力を賜りますことを改めてお願い申し上げますとともに、本日、ご臨席いただきました皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますといたします。

令和6年10月19日

西予市長 管家 一夫